

2020年度  
入学試験問題  
( B 日程 )

国 語

注 意

- 1 「開始」の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 「開始」の合図で、1/5から5/5まで問題が印刷されていることを確かめなさい。
- 3 解答用紙に受験番号を書きなさい。名前を書いてはいけません。
- 4 答えはすべて解答用紙の指定された解答らん<sup>らん</sup>に書きなさい。問題用紙に書いても得点になりません。
- 5 解答用紙はこの表紙の裏にあります。
- 6 「終了」<sup>しゅうりょう</sup>の合図で、すぐに筆記用具を置きなさい。
- 7 問題および解答用紙は机の上に置き、持ち帰ってはいけません。

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

もう四〇年も前のことになりましたが、東京の伯父が北海道大学に行っていた息子（わたしの従兄）に電話したときのことを、いま思い出しました。まず葉書で日時を打ち合わせ、しゃべる内容を書いた紙片を手に、伯父は従兄と話したのです。謹厳実直で鳴らした伯父らしいエピソードだとはほえましく思いますが、場合によっては、とくに考えを伝える場合には、ことばに対してこれくらい（の）の気構えや用意が必要なのではないでしょうか。きみたち、よく自宅の電話で友人と長ばなしをしますね。あれは考えを伝えるというのではなしに、おしゃべりを楽しむというか、おたがいにことばで声で触れ合っているわけで、それは話しことばの一つの効用であり、必要なむだばなしといえるでしょう。しかしそれはあくまでも「あそびの会話」で、おたがいの感情や考えが、深いところで通じあい理解しあっているか、という点になると、わたしは首をかしげたくありません。

最近、全国の一六歳以上の三六〇〇人を対象にNHKの総合放送文化研究所と放送世論調査所が「日本人のことばに関する意識調査」を行いました。そのなかで、「あなたは、自分の考えをうまく言いあらわせず、もどかしいと思ったことがありますか」という質問に対して、もどかしい思いをしたことが「ある」と答えた人は七九%、一六一―一九歳で八五%で、とくに若い世代に多いことがわかります。

X、「あそびの会話」はとても上手なのだけれど、自分の気持ちや考えを、ことばで正確に表現し、それを相手に理解してもらうことは、どうもうまくできないと、大勢の若い人たちは感じているということになります。

では、自分の気持ちや考えを、あまざすそっくり相手に伝えるにはどうしたらいいか。それには前もって、簡条書きでもいいから文字にしてみる、言いかえれば自分の考えそのものを確認することです。頭のなかにもやもやとした考えがあり、しゃべることでそれを組み立てていこうとすると、えてして出たとこ勝負の行き当たりばつたりの話し方になり、ことばだけが先走ってしまつて、自分が何をしゃべっているのかわからなくなることさえあります。書いた場合は、消したりことばを足したりすることができず、いったん空中に飛び出したことばは消しゴムで消すことができません。

スペインでシャツを買ったときのことです。マドリッドの洋品店でしたが、日本語はもちろんのこと、英語も通じません。それでもわたしは店の奥からシャツを出してきてもらつて、薄いブドウ色の無地という希望を伝え、着てみていいかと聞き、欲しい一着を買つて店を出てきました。ひとこともスペイン語を話さずにです。ぜんぶジェスチャーです。（中略）

ことばは通じなくても、人は考えられている以上に気持ちを伝えあうことができます。

しかし、たとえばわたしは幸いそういう経験はありませんが、外国で病気になったとき、語学が相当に達者な人でも、自分の自覚症状を外国人の医師に伝えるのは、なかなかむずかしいそうです。「どうも頭が変に重苦しくて、腹はときどきさしこむように痛いし、おまけに吐き気がして……」なんていうのを英語で言ってみると言われたら、わたしなどお手上げです。

③「考えを伝える」というのは、これと似ていると思うのです。ジェスチャーだけでは、もちろん駄目だし、片言では役立たないのです。やはりことばをたくさん知つてなくちゃいけないことになる。とはいえ、スペイン語でも英語でもなく、日本語なので、諦めることはない。ことばはみんなの共有財産です。しかもどれだけたくさん持つていても税金はかかりません。

④子どもが、ときどきびっくりするようなすばらしい詩を書くことがあります。それは、世俗のちりや救いようなない常識の泥水に足をとられているといふことがないから、大人から見たらハツとするような、物事の本質を素手でつかむような表現になるといふこともありますが、一方、場合によつては、子どもは知つていることばの数が少ないから、持ち合わせのことばだけで表現するため、新鮮な感じを大人にあたえる場合が多い。

Y、きみたちは子どもではないのですから、舌足らずであつていいはずはないし、子どもには手の届かないいろいろな言いまわしや語彙をたくさん知つていなくてはと思うのです。そのためには、きみのことばの生活が「あそびの会話」のわく内にとどまらず、もっと広いことばの海へ漕ぎ出すことです。それも、ことばの音としての側面ばかりでなく、⑤としてのことばに目を向けることです。

地球に人類が誕生して以来、さまざまな民族が繁栄と滅亡を繰り返してきました。原始時代には、人は自分で欲しいものを自分で採取して生活していましたが、生活が複雑になって、物資の交換が行われるようになって、自分の意志を他人に伝える必要からことばが生まれました。やがて国家ができ、金属器を使い、社会生活が複雑になってくると、ものごとを口で伝えるだけでは間に合わなくなり、文字が発明されました。ことばの発明から文字の発明までには、数十万年かかったといわれています。（中略）

人類は絵、絵文字、岩石文字、象形文字、くさび形文字など、さまざまな種類の文字を遺してきました。発見されたものの未だに解読されない古代文字がいくつもあります。

しかし、どの民族も文字を持っていたわけではなく、持たなかった民族のほうがずっと多いのです。その点、わたしたちが文字を持っていたのは実に幸せなことだと思わずにはいられません。

Z、最近の新聞の報ずるところによると、日本では戦争・戦後の混乱、貧困、差別、障害など、さまざまな事情で、教育の場から、はじき出された人は、全国で一四〇万人いると推定されるそうです。

次に掲げるのは、家が貧しくて学校へ行けなかった女性が、年を取つてから識字学級で字を習い覚えて書いた手紙の一節です。

夕やけをみてもあまりうつくしいと思はなかつたけれどじをおぼえてほんとうにうつくしいと思ふようになりました。

(わ)

〔『にんげん』解放学校用「全国解放教育研究会編」より〕

読んでわたしは感動しました。

この女性にとって、まわりの世界がそれまでのモノクローム（白黒）からカラーに変わった、それまで声だけしか知らなかった相手に、目の前でまざまざと出会つた、そんな感じを持ったのだと思います。もちろん、長い間読み書きが出来なかつた不便や気おくれ、気づまりが、字を自分のものにしたことで、すっかりぬぐい去られた、ひろびろとした気持ち、夕やけの美しさをたっぷりと感じてきたということでしょう。でも、もう一

つの側面から言えば、「夕やけ」という字を、「うつくしい」という字を自分のものにしたことで、「ああ、夕やけはうつくしい」という、しみじみとした思いを、くつきりと気持ちに刻むことができるようになったのだと思います。ことばにはそういう力があります。きみはギターを弾きますか。わたしは三〇歳を過ぎてからですが、やっとギターを買う余裕ができて、ほんの三か月ばかり基礎を習いにいき、あとは自分勝手に弾いて、ずーっと楽しんできました。「禁じられた遊び」など、つかえながら弾いたり、フォークソングを弾いて歌ったりしています。八〇歳くらいになったら、シンガーソングライターというのになってやろうかなどと思っています。これは冗談。<sup>じょうたん</sup>ギターを弾きはじめてから、それまで好きだったギター音楽が、ますます好きになりました。ギターを抱えて弾くと、他人の演奏を聴くのと違って、ひびきがおなかを通して自分の身体に伝わってきますね。

字を知るといのは、どこかこれに似ているような気がします。ことばが、ほんとうに自分のものになるのです。<sup>⑧</sup>きみに言います。

たくさんのことばをきみのものにしてください。「考えを伝える」ことは、そこからスタートします。

\*謹厳実直…つつしみ深くまじめで正直であること。

(川崎洋『ことばの力』)

問一 〰線部A〳Cのことばの意味として最も適当なものを次のア〳エからそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A あまさず		B 行き当たりばったり		C 舌足らず	
ア	意味をずらす	ア	ぐうぜんめぐり会うこと	ア	言葉が足りない
イ	わかりやすく	イ	その場の流れに任せること	イ	単語が少ない
ウ	余裕をもって	ウ	無計画に動きまわること	ウ	意味がない
エ	残すところなく	エ	その場の空気が悪くなること	エ	発音がよくない

問二 X 〳 Z に入ることばとして適当なものを次のア〳キからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。(同じ記号は二度使えません。)

ア そして    イ つまり    ウ たとえば    エ もし    オ ところで    カ ならば    キ しかし

問三 〰線部①「これくらいの気構えや用意が必要なのではないでしょうか」とありますが、これを説明したものとして最も適当なものを次のア〳エから選び、記号で答えなさい。

ア 考えていることをだれかに伝えようとするときは、忘れないように内容を紙に書いて覚える必要があるということ。

イ だれかと大切な話をするときは、事前に打ち合わせをして会話の方法を決めておく必要があるということ。

ウ 自分の考えていることをだれかに話すときは、内容を事前に整理しておくぐらいの気持ちが必要であるということ。

エ 自分の思いをだれかに伝えるときは、失礼にならないように前もって手紙を送っておく必要があるということ。

問四 〰線部②「あそびの会話」とありますが、筆者はこれをどのようにとらえていますか。最も適当なものを次のア〳エから選び、記号で答えなさい。

ア おたがいに声で触れ合うことはできるが、思っていることを深く理解し合うことのないたわいのないおしゃべり。

イ おしゃべりを楽しむことはできるものの、感情だけが伝わり、考えがまったく伝わることのない何気ない長ばなし。

ウ おたがいに心を通わせることはできるが、相手に思っていることを伝えるには意味をなさない不必要な会話。

エ 自分の考えを伝えることはできるものの、楽しい話題ばかりでおたがいに時間をむだにしてしまっている会話。

問五 〰自分の気持ちや考えが伝わらないもどかしさからぬけ出すためには、どうすることがいいと筆者は考えていますか。本文のことばを使って二十字以内で答えなさい。(、。」「は字数に数えます。)

問六 〰線部③「考えを伝える」ことについて、筆者はどのように考えていますか。最も適当なものを次のア〳エから選び、記号で答えなさい。

ア 自分の考えを理解してもらうためには、多くの国の言語を身につけておかなければならない。

イ 自分の考えを理解してもらうためには、正しい文法で正確な表現をしなければならぬ。

ウ 的確に自分の考えを伝えるためには、海外に留学して語学力を身につけなければならない。

エ 的確に自分の考えを伝えるためには、たくさんことばを知っていなければならない。

問七 〰線部④「子どもが、ときどきびっくりするようならばらしい詩を書くことがあります」とありますが、それはなぜだと筆者は考えていますか。次のア〳オから適当なものを二つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 聞いたことのあることばだけで表現するので、独特な言い回しが不思議に感じられるから。

イ 知っていることばだけで表現するので、新鮮な言い方のように感じられるから。

ウ 持ち合わせのことばだけで表現しようとするので、常識にとらわれることがないから。

エ 常識にとらわれずに表現することで、物事の本質をつくようなことがあるから。

オ 思いこみに左右されずに表現することで、どんな内容でもさわやかな印象を与えるから。

問八 ⑤ に入ることばを本文から探し、書きぬきなさい。

問九 〰線部⑥「わたしたちが文字を持っていたのは実に幸せなことだったと思わずにはいられません」とありますが、文字を持つことで何ができるようになったのですか。最も適当なものを次のア〳エから選び、記号で答えなさい。

ア 複雑な社会生活を成り立たせることができるようになった。    イ 物資の交換をすることができるようになった。

ウ 現代まで民族が生き残ることができるようになった。    エ 自分の意志を他人に伝えることができるようになった。

問十 〰線部⑦「じをおぼえてほんとうにうつくしいと思うようになりました」とありますが、筆者は、女性がこのように感じられるようになったのはなぜだと考えていますか。その理由を二つ、解答らんに続くようにそれぞれ五十字以内で説明しなさい。(、。」「は字数に数えます。)

問十一 — 線部⑧「ことばが、ほんとうに自分のものになる」とありますが、それはどういうことですか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 人から聞いたことを調べてみると理屈がわかるように、字を知るとことばの由来がはっきりと見えてくるということ。
- イ 学んだことを実践すると本質がつかめるように、字を知るとことばの意味がより深く感じられるということ。
- ウ 新しく知識を得るともの見方が変わるように、字を知るとことばの意味のとらえ方も変わるということ。
- エ 思いついたことを行動にうつしてみると発見があるように、字を知るとことばの持つ新たな可能性に気づくということ。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

飛行機の客室乗務員として働いていたタカラは、ある日突然笑うことができなくなり、仕事をやめてしまった。しばらくして夜中に散歩をしていた時、病気で亡くなった幼なじみのカズちゃん（一樹）のお父さんが星を見ているところにくっぺん出会った。

カズちゃんのお父さんは、次はふたご座流星群が十二月に日本で見る事ができるのだ、と教えてくれた。十二月、そんな近い将来ですら笑えない自分がどうなっているのか、想像もつかなかった。でも、たぶん、自分はおめおめと生きているのだ、と思った。

突然、申し訳ない気持ちに襲われる。すみません。カズちゃんみたいないい子が死んだのに、私のようなものが生き続けてすみません。本当に本当に、ごめんなさい。①気がついたら、タカラは泣いていた。

お父さんは、すぐに気がついて、シオルダーバッグ——夜中にそんなものを持つてきていたとは、その時まで気づかなかったが——その中から、くたくたのポケットティッシュを出してきて、タカラに渡した。ティッシュの広告にある銀行は、何年も前に合併して名前を変えている。ずっと何年も家に置いていたのだろうか、そのティッシュで鼻をかむと、かすかにカズちゃんの家匂いがした。

ふいに、カズちゃんの家裏庭の湿った空気を思い出す。二人は、そこでよく苔を集めた。家から持ち出したバターナイフで、とても上手に苔をはいでみせたカズちゃんの手。こうやって、苔をはぐ遊びを二人はひそかに〈手術〉と呼んでいた。

「やってみて」と、重々しくバターナイフを渡す、真面目くさったカズちゃんの顔。

うまくできなくて、カズちゃんを見ると、

「大丈夫」とうなずいた。新米の研修医を励ますように、

「ボクが見てるから大丈夫」そういつて、本当に辛抱強く、タカラの手元を真剣に見つめていたカズちゃん。

「本当に見てよ」

「大丈夫。ずっと見てるから」

タカラはカズちゃんのコトバを信じて、湿った地面にバターナイフを差し込んで、ぐいぐい力強く裂いてゆく。あの時の私は自信に満ちていた。それは、カズちゃんが見ていてくれたからだ。

②「カズちゃんのウソつき。ずっと見てるって言ったくせに」タカラの絞り出すようなコトバを、お父さんはじっと聞いていた。

自分だけ先になくなってしまつて、私はどうしたらいいの？ 誰に大丈夫って言ってもらえばいいの？ ウソつき。ウソつき。ウソつき。自分の意思に関係なく、涙が次から次へと流れてゆく。

ずいぶん時間が経った気がして顔を上げると、お父さんは、まだ空を見ていたが、タカラに気づいて、話しかけた。

「死んだら星になるっていうでしょ？ あれ、ボク、信じられないんですけど」

お父さんは、少し離れた場所に、タカラと同じように体を縮めて座り込んだ。

「だってほら、ボク、自然科学の人だから。子供の時から、天体の写真見て育つてきているから、死んだら星になるって言う人のこと、子供心にバカだなあと思つていてね」

話を聞くことに集中していると、いくぶんかタカラの心が落ち着いてきた。

③「でも、本当にそうだったらいいのね。星になって見てくれたら、それだけで、救われる部分はあるよね」

夜空を見上げるお父さんは、朝、出勤するときと同じ顔をしていて、悲しみを抱えている人にはみえなかった。見えないけれど、どうしようもなく、それはあった。夜の冷たい空気の中で、それがタカラのところまで伝わってくる。

「大丈夫」と言つてあげたかったが、言えなかった。カズちゃんは、なぜあんなに真っ直ぐな目をして「大丈夫」と言えたのだろう。何の確信も持てない自分には、到底言えないコトバだった。お父さんの背中をさすつてあげることさえ難しい。⑤タカラは、自分が本当にゴミになつてしまったような気がした。

突然、お父さんが「上を向いて歩こう」を歌い出した。低い声なのに、夜の空によく通つた。途中で、

「ボク、案外、ロマンチックボイスでしょう？」と言つたので、タカラは笑つたが、たぶん、困つたような顔にしかならなかったのが、自分でもわかつた。

帰り道、お父さんの歌は、いつの間にか「見上げてごらん夜の星を」になっていた。思い切つて、タカラは考えていたことを口にした。

「カズちゃんは、やっぱり星になつたんじゃないでしょうか？」お父さんは、歌うのを止めて、

「その根拠は？」と大真面目な顔で聞いた。

「根拠はないです。でも、そういうふう二人で信じるというのは、どうでしょうか？」

長い沈黙の後、

「何度もそう思おうと思つたけど無理だったんだよね」と言つて、また歩き出した。

「一樹はね、手品みたいに消えたの。この世から、パツて、あとかたもなく消えちまつたの」

揺れるお父さんの背中を見ているうちに、タカラの中に、⑥何かが突き上げてきた。そうじゃない。そうじゃない。私も、そう思つていた。でも、

多分、そうじゃない。お父さんに、今もカズちゃんが空から見ていると、何としても信じさせなければならぬ。そして、なぜかお父さんがそう信じてると、自分もまた救われると確信した。全て根拠のない話だ。そんなわけのわからない話をお父さんに納得させるのは無理だろう。タカラは歩きながら考えていた。どうすれば、お父さんは信じてくれるのだろうか。

「じゃあ、カズちゃんの形見をくれませんか？」お父さんを追いかけたので、切れ切れの息だった。

「何が欲しいの？」高校を出てから、ほとんど会っていないなかったから、カズちゃんが何を持っていたかなんてわからなかった。

「雪だるま、雪だるまを下さい。私が修学旅行のおみやげであげた雪だるま。見たことないですか？ 雪だるまがスキーしてる人形」

お父さんは「うーん」と考え込んでいたが、タカラの顔があまりにも必死だったからか、探してみようと約束した。

(中略)

カズちゃんのお父さんは、休日だというのに、やっぱりスーツだった。

「今日は何を見せてくれるのかな？」

商店街を抜けたところにある橋の上から見る空が一番大きい、とタカラは信じていて、お父さんをそこに呼び出したのだった。

「もうすぐあらわれます」

タカラが、腕時計と空をかわりばんこに見ていると、空に小さくキラッと光るモノが近づいてきて、あわてて、

「あれです！」と指さした。

「あそこにカズちゃんに乗ってるんです」タカラのせつぱつまった声に、お父さんは眩しそうに目を細めて見ている。

「正確にはカズちゃんじゃなくて、カズちゃんの雪だるまが、あそこにいるんです。あそこから私たちを見るんです」

タカラは、黒河内に頼んだことを、早口で説明した。お父さんは何も言わず飛行機を見つめていたが、突然、空に向かつて大きく手を振った。

「おーいッ！ 一樹ッ！」初めて聞くお父さんの大声は、けっこう太くて男らしいものだった。

「オレ、ここにいるぞおッ！」中のものを全部、吐き出すように、そう叫んだ。飛行機が行ってしまうと、お父さんはタカラに、

「やだなあ、叫んじゃったよ、オレ」と笑った。

タカラは、笑いたかったが、⑧にしかならなかった。でもよかった。何がどうよかったのか説明できないけれど、でも、⑨によかったと思っ

った。

(木皿泉『昨夜のカレー、明日のパン』)

\*黒河内：客室乗務員の後輩。タカラは、雪だるまを飛行機に乗せて飛んでほしいと黒河内に頼んでいた。

問一 —— 線部①「気がついたら、タカラは泣いていた」とありますが、このときのタカラの様子として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア カズちゃんに何もしてあげられなかったことが申し訳なく、泣くことしかできずにいる様子。

イ カズちゃんが死んで自分の将来を考えられないことがむなしく、くやし涙を流している様子。

ウ カズちゃんが死んだのに自分は生きていることが悲しく、知らない間に涙が流れている様子。

エ カズちゃんのようないい子が生きられないことに怒りを覚え、泣かずにはいられない様子。

問二 —— 線部②「カズちゃんのウソつき。ずっと見てるって言ったくせに」とありますが、このときのタカラの気持ちとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア カズちゃんがいるときは自信を持っていたのに、今は一人で何かをする気力が起こらないほどやるせない気持ち。

イ カズちゃんを信頼していたのになくなってしまう、自分の気持ちも遊ばれたようで腹立たしく思う気持ち。

ウ 励まされていると思っていたのにウソをつかれていたとわかり、カズちゃんに裏切られたようで落ちこむ気持ち。

エ ずっと見ると約束したのになくなってしまい、カズちゃんを責めずにはいられないほど不安で悲しい気持ち。

問三 —— 線部③「本当にそうだったらいいのよね」とありますが、このときのお父さんの気持ちとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 一樹の存在をどこかに感じたいと思いつつも、そんなことを信じられるはずがないと苦々しく思っている。

イ 死んだ一樹が星になったと信じていることができれば、タカラを救ってあげられるのにと申し訳なく思っている。

ウ 一樹の存在が感じられれば少しは救われると思いつつも、どうしてもそれができずにさびしく思っている。

エ 一樹は星になったのだといまだに信じられず、過去の自分からぬけ出せないことをはずかしく思っている。

問四 —— 線部④「それがタカラのところまで伝わってくる」とありますが、これはどういうことですか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア お父さんの表情からは読み取れないが、心の中に確かにある我が子を失った悲しみが伝わってくるということ。

イ お父さんの声の中にどうしようもないあきらめが表れており、まだ立ち直れない苦しみが伝わってくるということ。

ウ お父さんの言葉の中にタカラへのいたわりが感じられ、自分のことよりも他人を気づかう優しさが伝わってくるということ。

エ お父さんの表情からさびしさがはつきりと読み取れ、他人には寄りそえないお父さんの孤独が伝わってくるということ。

問五 —— 線部⑤「タカラは、自分が本当にゴミになってしまったような気がした」とありますが、なぜそのように思ったのですか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア お父さんの背中をさする優しさすら持ち合わせていない自分に腹が立ったから。

イ カズちゃんを頼るばかりで今も全く成長していない自分が悲しくなったから。

ウ お父さんに何と声をかければいいのかわからぬ自分にあきれてしまったから。

エ お父さんに何もしてあげられない自分が無力に感じられ、情けなくなつたから。

問六 — 線部⑥「タカラの中に、何かが突き上げてきた」とありますが、このときのタカラの気持ちを、次のようにまとめました。( a )  
 ( b ) に当てはまることばを本文からそれぞれ十字以内で探し、書きぬきなさい。(、。 「」は字数に数えます。)

お父さんに、カズちゃんは消えたのではなく、( a ) と何としても信じさせねばならないという強い思いにかられた。そして、根拠はないが、そうすることで ( b ) と思った。

問七 — 線部⑦「空に向かって大きく手を振った」とありますが、お父さんはなぜこのような行動をしたのですか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 閉ざっていた気持ちを開いてみると、一樹が飛行機に乗っていると信じられるようになったから。
- イ 心に抱えていた感情を表に出して、一樹が消えてしまったのではないと信じてみようと思ったから。
- ウ 心の中にたまっていた苦しみを取り除いてくれたタカラに対して、感謝しないと失礼だと思ったから。
- エ すっきりとしなかった気持ちが晴れることで、一樹が空から手を振っているように感じたから。

問八 ⑧ に入ることばを本文から七字で探し、書きぬきなさい。(、。 「」は字数に数えます。)

問九 — 線部⑨「本当によかったと思った」とありますが、なぜそのような思えたのですか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 自信は持てないけれど、雪だるまを乗せた飛行機を一番良い場所でお父さんに見てもらうことができたと思ったから。
- イ 自信は持てないけれど、お父さんがずっとかくしたままだった本心をようやく聞き出すことができた気がしたから。
- ウ 確信は持てないけれど、自分が信じてやってみようと思ったことが、すっかりお父さんに届いたような気がしたから。
- エ 確信は持てないけれど、カズちゃんと会話している気分をお父さんに味わってもらうことができたと思ったから。

問十 本文中のタカラについて述べたものとして最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の将来について不安を抱いていたが、お父さんのおかげで明るい未来を見つめることができた。
- イ 悲しみを抱えてふさぎこみがちだったが、お父さんとのやり取りを通して自分から行動することができた。
- ウ 自分が何になやんでいるのかわからなかったが、お父さんと話すことで心の中を整理してもらうことができた。
- エ 何をすべきなのか全くわからなかったが、お父さんを救うことで自分の将来の夢を見つめることができた。

問十一 次の文章は本文のあとに続くもので、お父さんとタカラが喫茶店で話している場面です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

「いい名前だな、タカラ」  
 「いい名前ですか？」  
 「いい名前だよ」そう言った後、黙って窓の外を見た。空を見ているようだった。そして、「オレ、くたくたになるまで生きるわ」と言った。  
 窓からの陽がお父さんの横顔を美しく照らしていて、フェルメールの絵画のようだった。静かで、でも揺るぎなくそこにいた。最後に病室で見たカズちゃんのように。カズちゃんは、あの時、たしかにあそこにいた。病気だけれど、まだちゃんと生きて、そこにいた。なのに自分はその時、コンコンと逃げ出すことしか考えていなかった。怖かったし、見たくなかった。だけど、カズちゃんは、すべてを受け止めて、あそこにいたのだ。あの時の私は、愛想よく笑いながら、何ひとつ引き受けていなかった。  
 「私も」お父さんが、タカラの声にゆっくり振り向いた。  
 「私も、くたくたになるまで生きていいですか？」  
 お父さんの顔がゆっくりと笑顔に変わっていった。まるで、タカラにこんなふうになんか笑うんだよ、とお手本を見せるように。  
 「見てあげるよ」窓の外を指しながら、  
 「あそこから、ずっと見てあげる」と笑った。笑ったお父さんの顔は、カズちゃんとよく似ていた。  
 ⑪ タカラは、今ならなんでもできる、と思った。

- (1) — 線部⑩「静かで、でも揺るぎなくそこにいた」とありますが、これはお父さんのどのような様子を表していますか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。
- ア 一樹の死を改めて悲しいと思いつつ、自分はまだ生きていけると実感している様子。
  - イ 一樹の死を受け止めたうえで、最後まで生きぬこうと決心し前を向いている様子。
  - ウ 一樹の死を乗り越えたうえで、自分はまだ大丈夫だとタカラに示そうとしている様子。
  - エ 一樹の死を思い出しながら、逃げ出したくなる悲しみに向き合っている様子。
- (2) — 線部⑪「タカラは、今ならなんでもできる、と思った」とありますが、それはなぜですか。本文も参考にしながら、六十字以内で答えなさい。(、。 「」は字数に数えます。)

三 次の — 線部のカタカナを漢字に直しなさい。

- |   |                     |    |            |   |                 |   |              |
|---|---------------------|----|------------|---|-----------------|---|--------------|
| 1 | 町のケイカンを <u>守る</u> 。 | 2  | 先生をソクケイする。 | 3 | チームのギョウセキをたたえる。 | 4 | 日本のコツキをかかげる。 |
| 5 | フクシヨウとしての旅行券。       | 6  | 作品をヒビヨウする。 | 7 | 新しいテチヨウを買う。     | 8 | 彼はオンコウな性格だ。  |
| 9 | きれいでエイセイ的な部屋。       | 10 | 学級ニツシを書く。  |   |                 |   |              |



問一 A  
エ  
B  
イ  
C  
ア  
問二 X  
イ  
Y  
キ  
Z  
オ

問三  
ウ  
問四  
ア

問五  
自  
分  
の  
考  
え  
を  
文  
字  
に  
し  
て  
確  
認  
す  
る  
こ  
と  
。

問六  
エ  
問七  
イ  
エ  
問八  
文字(字)  
問九  
ア

字を自分のものにしたことで、  
づ  
ま  
り  
が  
な  
く  
な  
り  
、  
読  
み  
書  
き  
が  
で  
き  
ろ  
び  
ろ  
と  
し  
つ  
た  
た  
不  
便  
や  
気

問十

十  
分  
に  
美  
し  
さ  
を  
感  
受  
で  
き  
た  
か  
ら  
。  
字を自分のものにしたことで、  
い  
を  
、  
く  
っ  
き  
り  
と  
自  
分  
の  
気  
持  
ち  
に  
刻  
む  
こ  
と  
う  
思  
ひ  
を  
、  
っ  
一  
夕  
や  
け  
は  
う  
つ  
く  
し  
い  
一  
と  
い  
う  
思

問十一  
イ

二  
問一  
ウ  
問二  
エ  
問三  
ウ  
問四  
ア  
問五  
エ

問六 a  
空  
か  
ら  
見  
て  
い  
る

b  
自  
分  
も  
ま  
た  
救  
わ  
れ  
る  
問七  
イ

問八  
困  
っ  
た  
よ  
う  
な  
顔  
問九  
ウ  
問十  
イ  
問十一(1)  
イ

問十一 (2)  
カ  
ズ  
ち  
ゃ  
ん  
の  
死  
を  
受  
け  
取  
め  
、  
カ  
ズ  
ち  
ゃ  
ん  
と  
同  
じ  
こ  
と  
を  
お  
父  
さ  
ん  
に  
言  
っ  
て  
も  
ら  
っ  
た  
こ  
と  
と  
で  
、  
自  
信  
を  
持  
て  
る  
よ  
う  
に  
言  
っ  
た  
か  
ら  
。  
。

三

1 ケイカン	6 ヒヒヨウ	景観	批評
2 ソッケイ	7 テチヨウ	尊敬	手帳
3 ギョウセキ	8 オンコウ	業績	温厚
4 コツギ	9 エイセイ	国旗	衛生的
5 フクシヨウ	10 ニッシン	副賞	日誌